MITSUBISHI

PAC-SH54HU

適用機種	4方向カセットBタイプ

三菱パッケージエアコン別売部品

加湿器取付説明書

安全のために必ず守ること

●取付けは、この「安全のために必ず守ること」をよくお読みのうえ、確実に行なってください。
●ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。
●誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を、次の表示で区分して説明しています。

⚠警告	誤った取扱いをしたときに、死亡や重傷などに結びつく可能性があるもの。
⚠注意	誤った取扱いをしたときに、傷害または家屋・家財などの損害に結びつくもの。

●取付け完了後、試運転を行ない異常がないことを確認するとともに、この取付説明書は取扱説明書と共に、お客様で保管いただくように依頼してください。また、お使いになる方が代わる場合は、新しくお使いになる方にお渡しいただくように依頼してください。

⚠警告

取付けは、販売店または専門業者に依頼する。
●お客様自身で取付けをされ不備があると、部品によっては水漏れや感電、火災等の原因になります。

取付けは、この取付説明書に従って確実に行なう。
●取付けに不備があると、部品によっては水漏れや感電、火災等の原因になります。

取付け（移設）・電気工事をする前に

⚠注意

ポリ袋は幼児の手の届くところに置かない。
●頭からかぶるなどしたときに口や鼻をふさぎ窒息する原因になります。

電源配線工事がある場合は、電流容量に合った規格品の電線を使用すること。
●漏電や発熱・火災の原因になります。

冷媒配管工事がある場合の断熱は結露しないように確実に行なう。
●不完全な断熱施工を行なうと配管等表面が結露して、露タレ等を発生し、天井・床その他、大切なものを濡らす原因となります。

ドレン配管工事がある場合は、取付説明書に従って確実に排水するように施工し、結露が生じないよう保温すること。
●配管工事に不備があると、水漏れし、天井・床その他家財等を濡らす原因になります。

1 部品の確認

この箱の中には、この説明書のほかに下記部品が入っていますのでご確認ください。
＊搬入時は取付ける場所まで梱包のまま搬入してください。やむを得ず開梱して搬入する場合は、エレメント部分が傷付かないよう取扱いに十分注意してください。

①加湿器本体	②タッピングネジ	③配管用断熱材	④バンド	⑤ストレーナ
エレメント、給水口、排水ジョイント、電気品箱　1台	4×16　7ケ	灰色（大）t3×120×250、白色（小）t6×80×220　各1枚	3本	1ケ
⑥排水ホース	**⑦本体開口部断熱材**	**⑧排水ジョイント部断熱材**	**⑨ご注意ラベル**	
1ケ	（大A）t2×80×345 1枚、（大B）t3×60×345 1枚、（大C）t5×60×345（2枚重ね品）1枚、（小）t5×60×130（2枚重ね品）2枚	紺色　t3×50×280　1枚	ご注意　1枚	

2 据付前の準備

1.現地手配部品

⑴減圧弁・・・供給水圧を0.1MPa以上、0.2MPa以下に調整してください。
減圧弁から複数の加湿器に分岐給水される場合は0.15MPa以上0.2MPa以下に調整してください。

⑵止水用バルブ・・・シーズンオフ、または緊急時等の為に加湿器の配管上流側に止水用バルブを必ず設けてください。

⑶軟水器（純水器）・・・加湿器の長寿命化の為、使用を推奨します。

⑷シスターン（形式認可のもの）・・・給水は公共の水道管に直接接続することはできません。
公共の水道管から給水しなければならない場合は、必ずご使用ください。

> ⚠注意
> 供給水圧が高いと、水漏れなど故障の原因となります。また、供給水圧が低いと、水量不足によるエレメント劣化の原因になりますので、必ず減圧弁を取り付けて、調整してください。
> 減圧弁から分岐する場合、水圧が低くなりますので、0.15MPa～0.2MPaに設定してください。

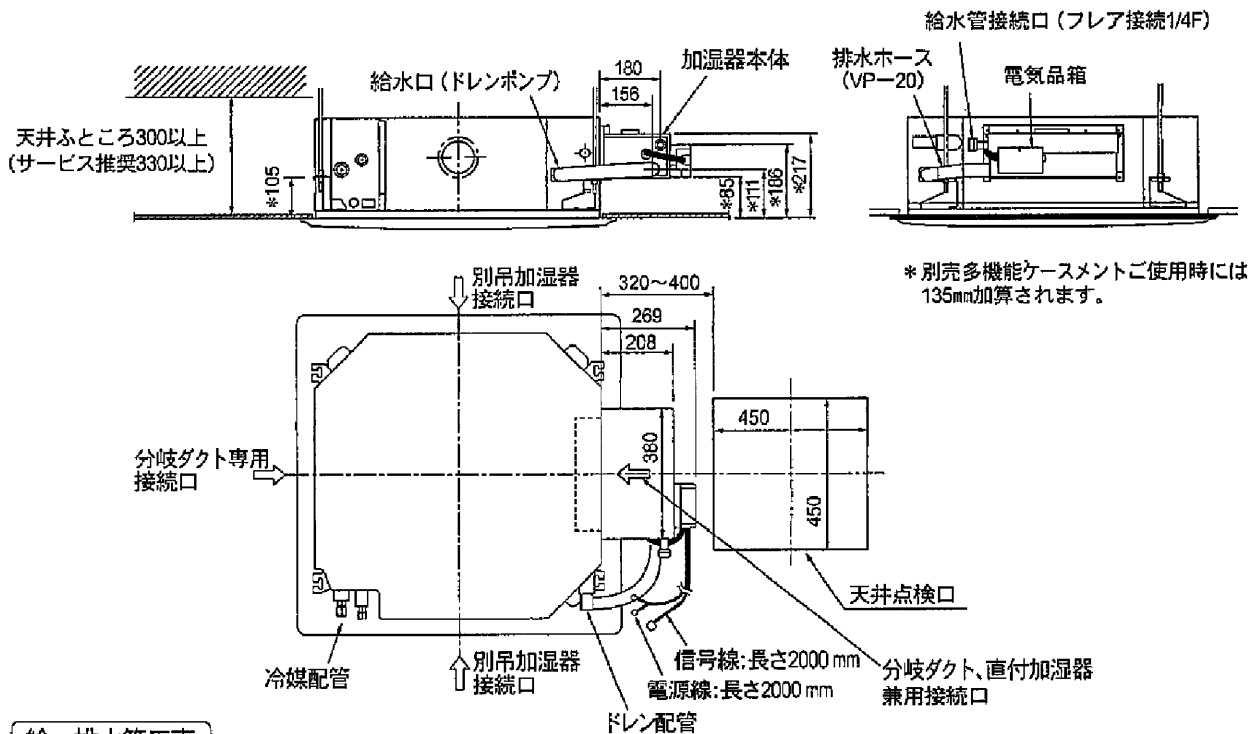
2.留意事項

据付スペース

⑴加湿器の組込みは、天井材を張る前に必ず行なってください。
⑵加湿器の組込みに際し、天井構造の事前検討をお願いします。（天井施工業者様ともご相談ください。）
⑶天井点検口を必ず設置してください。

加湿器の取付け

⑴本体吊り下げ時は必ず水準器にて水平となるように調整してください。
（両端の高低差が10mm以上の場合、ドレンパンよりオーバーフローします。）
⑵加湿器の取付位置は1ヶ所です。ドレン配管から見て右側面に行なってください。
（左側面は、分岐ダクト専用であり、取付けできません。）

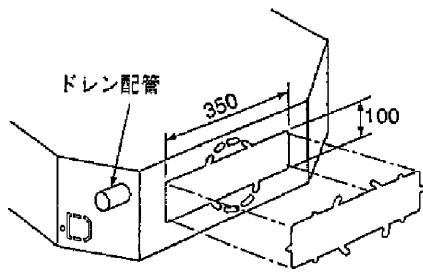
単位:mm

給・排水管工事

⑴供給水質・・・市水、上水またはこれと同等以上の水を使用してください。
⑵供給水温度・・・5℃～40℃
⑶供給水圧・・・0.1MPa以上、0.2MPa以下に調整してください。減圧弁から複数の加湿器に分岐給水される場合は0.15MPa以上0.2MPa以下に調整してください。
⑷減圧弁の付近に必ず付属のストレーナを接続してください。（ 5 給水配管工事 参照 ）
⑸排水には必ず付属の排水ホース⑥をご使用ください。

制約事項

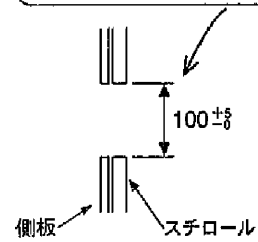
⑴室内ユニット分岐ダクト（2ヶ所）のうち、1ヶ所は加湿器取付で使用できなくなります。
⑵加湿器を取付けた場合、2方向、3方向吹き出しはできません。必ず4方向吹き出しでご使用ください。
（能力の低下及び露タレ等が発生する原因になります。）

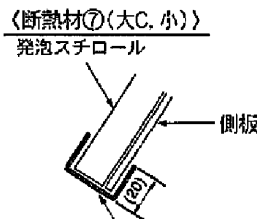
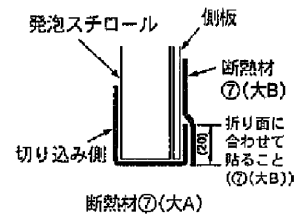
3 加湿器取付手順

1. 室内ユニット本体の取付用カットアウト穴をあけます。

⚠注意

加湿器の取付けはドレン配管から見て右側面に行なってください。
左側面は分岐ダクト専用であり、取付けできません。

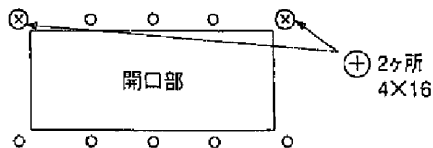
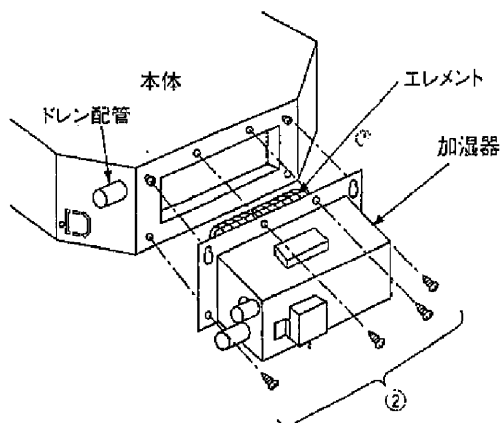
⚠注意

この寸法は必ず守ってください。
守らないと故障の原因になります。

(1)100×350角ダクトのスリットがついていますのでニッパー等でスリットを切り落とします。
(2)100×350の角穴に合わせてスチロールをカッター等で切り落とし100×350の穴をあけます。
(切り粉は充分取り除いてください。ドレンポンプのつまりの原因となります。)

2. 角穴に付属の断熱材を貼ります。

断熱材は室内ユニットの側板と内側の発泡スチロールとの隙間をふさぐように貼ってください。

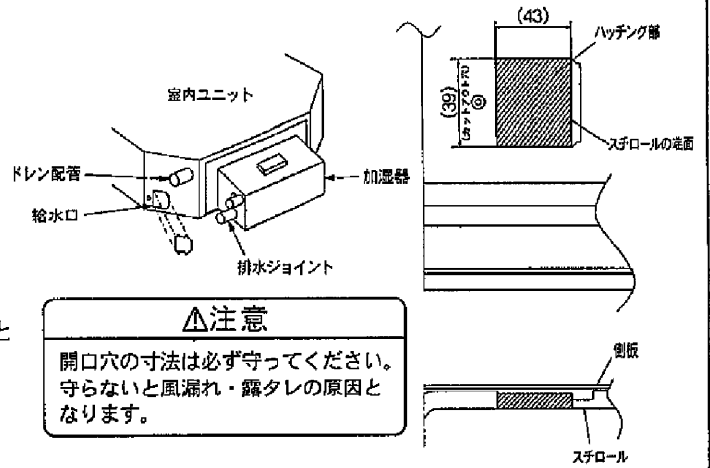
⚠注意

たるみが無いようにしてください。
エレメント部に断熱材があたると水漏れの原因となります。

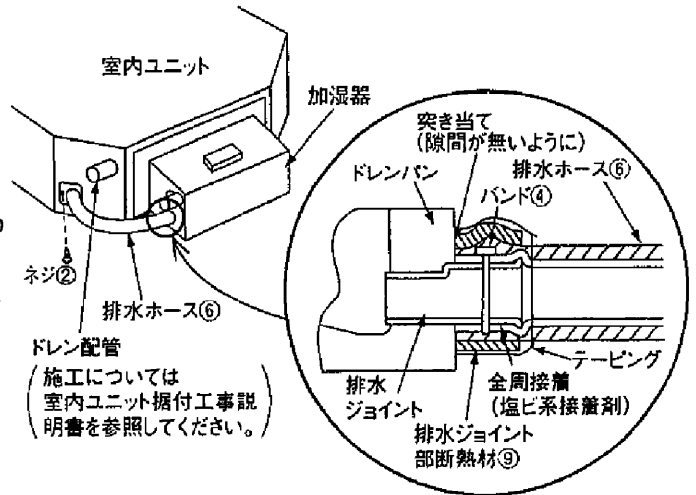
3. 室内ユニットに加湿器を取付けます。
(1)仮掛用としてネジ②を2ヶ所に取付けます。

(2)加湿器を取付けます。
エレメント部分が本体にあたらないように注意しながら仮掛用ネジに引掛けます。
ネジ②の残り4本も使い、加湿器を固定してください。

⚠注意

取付時、エレメントを持ったり、当てたりしないでください。傷付いたり、変形すると露タレの原因となります。

4 排水配管工事

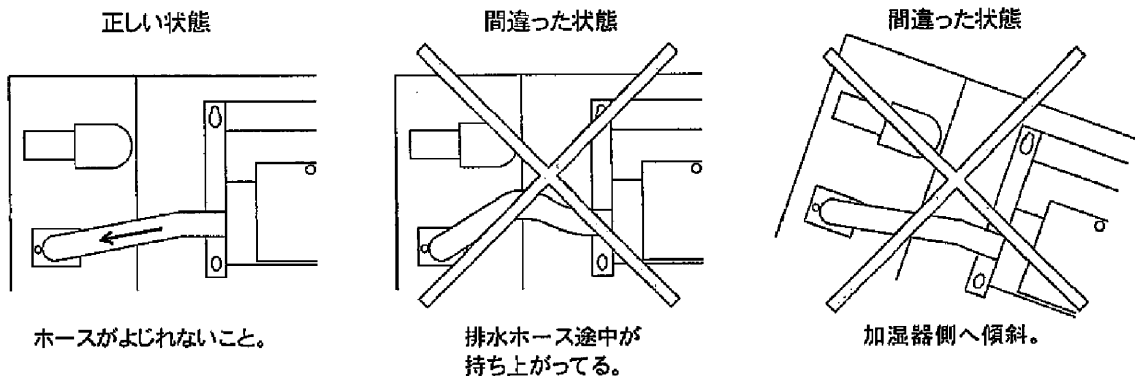
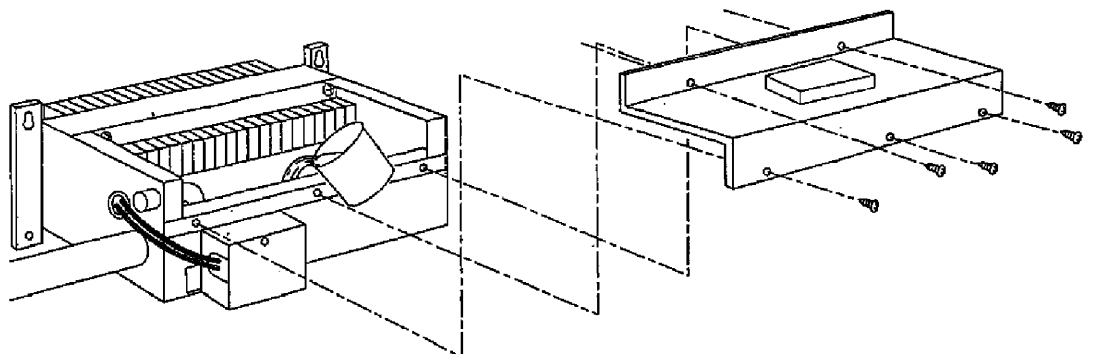
1. 室内ユニット本体の給水口用カットアウト穴をあけます。
   (1) 給水口のスリットがついていますのでニッパー等でスリットを切り落とします。
   (2) 右図に示すハッチング部のスチロールをカッター等で切り落とし、穴をあけます。
   (切り粉は充分取り除いてください。ドレンポンプのつまりの原因となります。)

2. 排水ホース⑥を接続します。
   (1) 室内ユニット本体側の排水ホース先端部を室内ユニット側板とスチロールの間に引っ掛け、ネジ②で固定してください。
   (2) 室内ユニット側を取付けた後、加湿器側を接続してください。
   排水ジョイントにホースの向きを合わせてください。その際、排水ホースがよじれないように取付けてください。

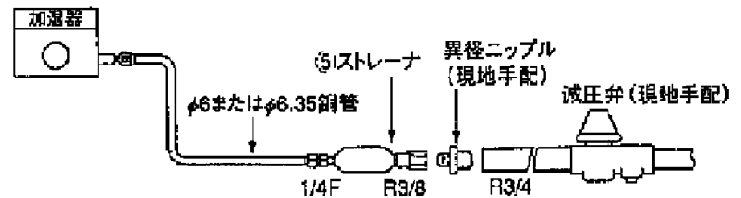
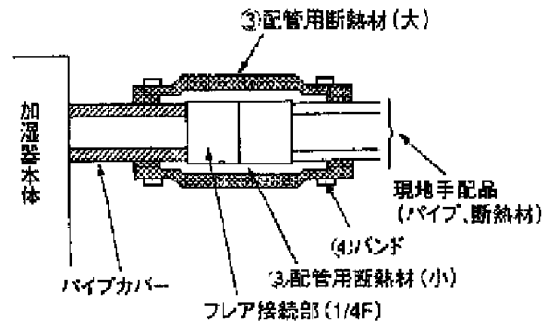
加湿器側取付手順

ステップ1：排水ホース⑥を突き当てるようにして排水ジョイントに挿入し、塩ビ系接着剤で接着。
ステップ2：排水ホース⑥の断熱材をスライドさせ、その内側をバンド④でとめる。
ステップ3：断熱材を元にもどし、排水ジョイント部断熱材⑨を隙間がないように巻く。
ステップ4：さらに、断熱材の上からテーピングする。

⚠注意
排水ジョイント根元に大きな力を加えないでください。
(破損した場合、水漏れの原因となります。)

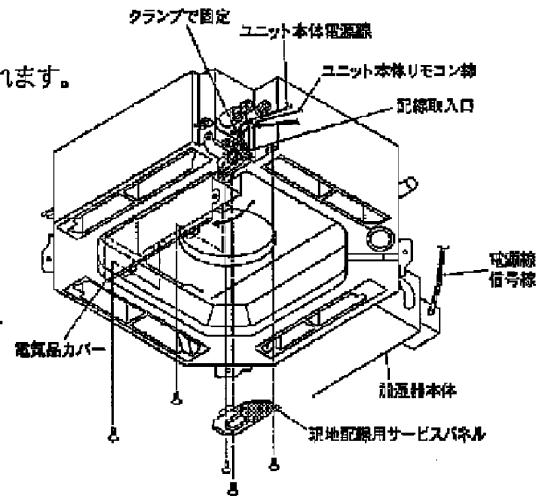
⚠注意

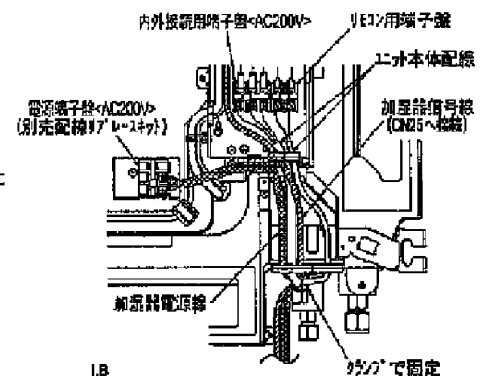
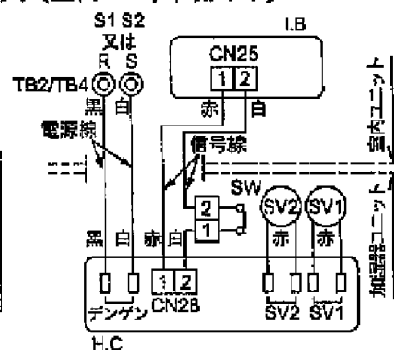
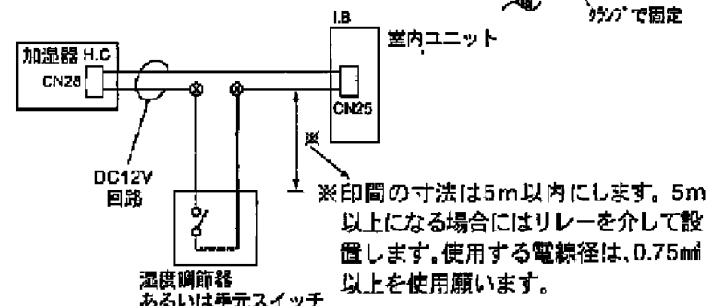
水漏れの原因となりますので、必ず室内ユニット側へ傾斜させるようにしてください。

正しい状態	間違った状態	間違った状態
ホースがよじれないこと。	排水ホース途中が持ち上がってる。	加湿器側へ傾斜。

3. 排水性確認
   加湿器の蓋を取り外しドレンパンに水(約1リットル)を徐々に注水して、排水性を確認してください。
   (9 試運転 で室内ユニット本体のドレンポンプから排水されることを確認しますので、それまで水を抜かないでください。)

5 給水配管工事

- 加湿器ーストレーナ間の配管材は現地手配になりますので銅管外径φ6またはφ6.35を用意します。
- 減圧弁(現地手配)は供給水圧を0.1MPa以上、0.2MPa以下に調整してください。減圧弁から複数の加湿器に分岐給水される場合は、0.15MPa以上0.2MPa以下に調整してください。
- 加湿器への接続は1/4Fフレア接続です。
- 加湿器給水管の接続はダブルスパナでしっかり締付けます。
- 付属の配管用断熱材③とバンド④を使って配管接続部の断熱を行ないます。
  それ以降につきましては現地手配にて露タレ、冬期の凍結破損等ないよう充分な断熱を行ないます。
- 付属のストレーナ⑤を加湿器と減圧弁(現地手配)との間に必ず設置します。
- 付属のストレーナ⑤は出口側のみ1/4Fフレア接続となっています。
- 入口側の接続には現地配管に合った異径ニップルを現地手配にて用意します。
- ストレーナはサービスできる所へ設置します。
- ストレーナ及び現地の配管部分には、充分な断熱を行ないます。(発泡ポリエチレン比重0.03肉厚9mm以上)
  不十分な場合は、露タレ、冬期の凍結破損の要因になります。

6 室内ユニット本体への配線接続

- 加湿器に接続されている電源線と信号線を室内ユニット本体へ取り入れます。

(1)現地配線用サービスパネルを取外す(ネジ3本)
(2)電気品カバーを取外す(ネジ3本)(仮掛け可能)
(3)配線を、配線取入口からユニット内に入れる
(4)配線を端子盤に確実に接続(右図参照)
　①A制御機種の場合・・・内外接続用端子盤の「S1」「S2」端子へ接続してください。
　　但し、電源配線接続方式が内外別受電方式または室外ユニットより室内ユニットに電源を供給する方式の場合は電源端子盤(別売)の「R」「S」端子へ接続してください。
　②上記以外の場合・・・電源端子盤の「R」「S」端子へ接続してください。
　※サービス時を考慮して、電気品箱をユニットの下に降ろすための余裕を配線に持たせてください。
(5)配線をユニット側面および電気品箱内のクランプで固定
(6)取外した部品を元通りに取付け

- 電気配線図に基づいて配線接続をします。(室内ユニット側のみ)

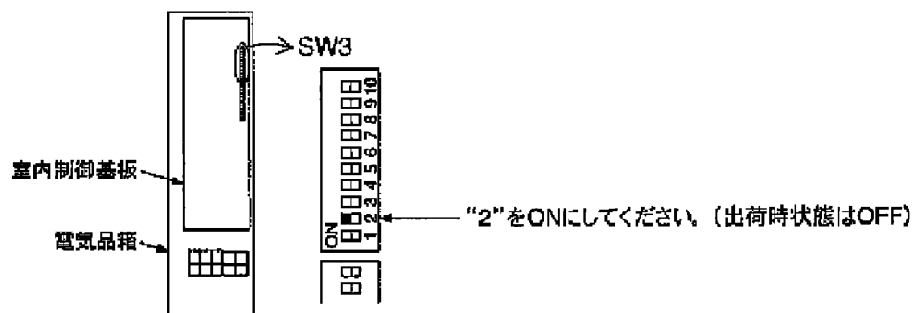
	記号	名　称
本体	TB2/TB4	端子盤(電源　内外接続線)
	I.B	室内制御基板
	CN25	コネクタ(加湿器)
加湿器	H.C	加湿器制御基板
	CN25	コネクタ
	SV1	電磁弁(給水)
	SV2	電磁弁(保護)
	SW	フロートスイッチ

- 湿度調節器あるいは手元スイッチを使用する場合の配線変更(現地手配)においてコネクタCN25とCN28に接続している線間に直列に入れます。

7 室内ユニットの機能設定

加湿器を取付けた場合、リモコンまたは室内制御基板で室内ユニットの機能設定を変更してください。

(1)A制御機種の場合

リモコンからの設定となりますので、別紙の説明書に従って“加湿器あり”の設定(モード番号:13,設定番号:02)をしてください。

(2)上記以外の場合

室内制御基板のディップスイッチを下図のように設定します。

⚠注意	室内ユニットの設定をする。
	設定に不備があると加湿器が正常に動作しません。また、室内ユニットからドレンが排水されず、水漏れの原因となります。

8 注意書の取付け

据え付け後、付属のご注意ラベル⑩を空調機本体の手元開閉器の付近に取付けておいてください。

ご 注 意

このエアコンには、加湿器が組込まれています。開閉器を「OFF」にする場合には、必ず加湿器の止水弁(元バルブ)を閉じてください。

開閉器を「OFF」にしますと、加湿器が故障した場合の水もれ防止機能がはたらかなくなり、水もれの原因となります。

9 試運転

(1)もう一度、結線が正しく行われているか確認してください。
(2)給水配管が、確実に接続されているか確認してください。
(3)給水配管の止水用バルブを開いてください。(この時、加湿器に水はまだ供給されません。)
　※試運転開始後に止水用バルブを開けると数分間給水されない場合があります。
(4)電源を入れて室内ユニットを暖房試運転の状態にしてください。(試運転のしかたは室内ユニットに付属の取扱説明書を参照してください。)
　(この時、給水が始まり、加湿運転が始まります。)
(5)ドレン口透明可視化部及びドレン配管の最終出口部で室内ユニットからの排水を確認してください。
(6)暖房試運転開始後、約3~7分ごとに給水用電磁弁の作動音(カチッという音)がしますのでそれを目安に約20分間正常な加湿運転をしているか、確認してください。
(7)試運転が終わりましたら、止水用バルブとストレーナの位置をお客様に説明してください。

⚠注意	試運転時、水漏れ、水飛び、露落下等が無いことを必ず確認してからお客様に引き渡してください。

10 運転のしかた

加湿器を取付けた空調機を暖房運転にすれば、自動的に加湿運転します。
室内ユニット本体に付属の取扱説明書を参照して、暖房運転してください。

11 保守・点検

⚠警告

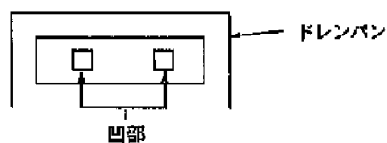
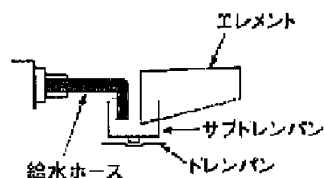
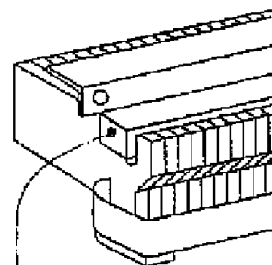
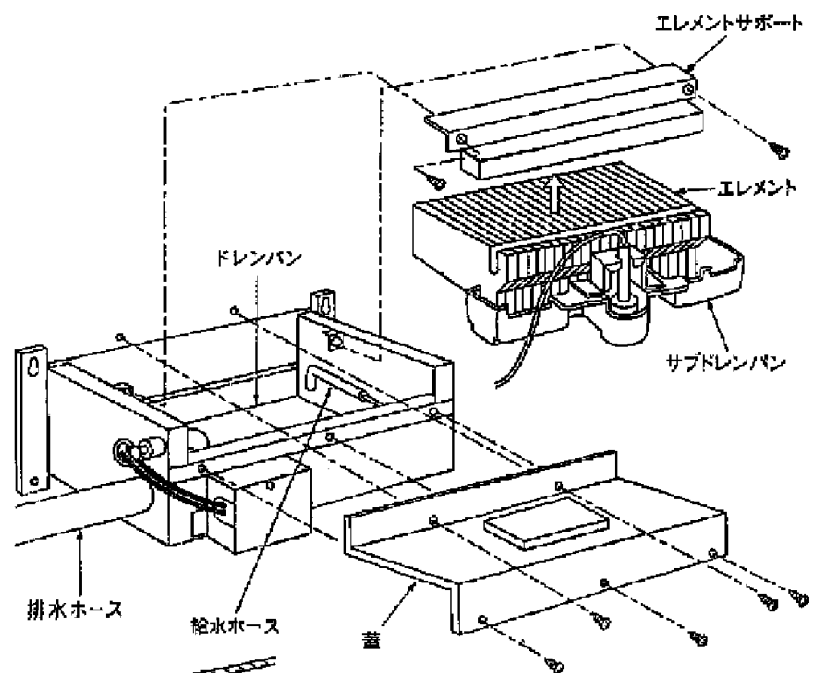
加湿器の保守はお買い上げの販売店もしくは専門の業者に依頼してください。
お客様自身で行い、不備があると水漏れや感電、火災等の原因になります。

定期的なメンテナンスが必要ですので、次の要領で行なってください。

(1)加湿エレメントの交換

長時間使用しますとエレメントは劣化し、能力が低下します。
使用環境によっても異なりますが、3年を目安に交換してください。

作業手順

①蓋を取り外す。（ネジ5本）
②エレメントサポートを取り外す。（ネジ2本）
③エレメントをサブドレンパンごと取出す。
④エレメントを交換して元に戻す。

※ドレンパンの位置決め用凹部とサブドレンパンの凸部を合わせてセットしてください。

※給水ホースが必ずサブドレンパンの中へ入るようにしてください。

(2)ストレーナの清掃

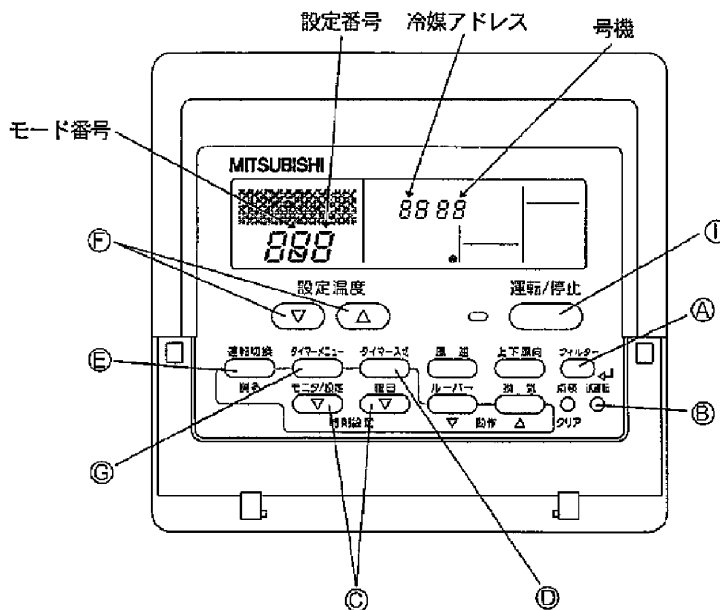
…1シーズンに一度清掃してください。

(3)加湿器ドレンパン、サブドレンパン、排水ホース、室内ユニット本体ドレンパンの清掃

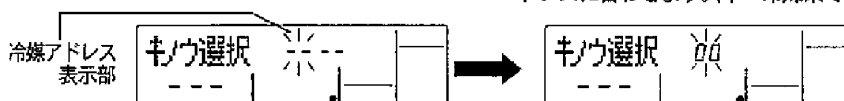
…定期的に清掃してください。（目安1回／年）

リモコンからの加湿器組込ありの設定方法（A制御機種の場合）

ワイヤードリモコンから設定する場合

設定は加湿器を取付けたユニット毎に行ってください。

【操作手順】

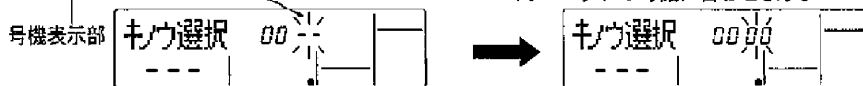
①リモコンを停止にします。
Ⓐフィルターと Ⓑ試運転 ボタンを同時に2秒以上押します。キノウ選択が点滅し、しばらくするとリモコンの表示が下図の表示になります。

②室外ユニットの冷媒アドレスNo.を合わせます。
Ⓒ △ ▽（時刻設定または時間設定）ボタンを押すと冷媒アドレスNo.が00～15の間で前後するので機能選択したい冷媒アドレスに合わせます。（単一冷媒系では00に合わせてください。）

※機能選択 および室温表示部に「88」を2秒間点滅後、停止状態となる場合は、通信異常が考えられます。
伝送路の近くにノイズ源がないか確認してください。

お願い　途中で操作を間違えた場合は、一度⑨にて機能選択を終了し、再度①より操作を行なってください。

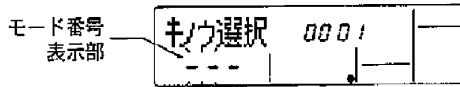
③室内ユニットの号機を合わせます。
Ⓓタイマー入切ボタンを押し、号機表示部「－－」を点滅させます。
（押すたびに、号機と冷媒アドレスの点滅表示が切り換わります。）

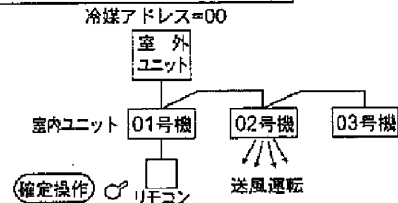
Ⓒ △ ▽（時刻設定または時間設定）ボタンを押すと号機が00→01→02→03→04→ALと変化するので機能選択したい室内ユニットの号機に合わせます。

号機表示部　キノウ選択 00 －－ → キノウ選択 00 00

※モード13を設定する場合は、
・各室内ユニットごとに行なう場合は、「01～04」に合わせてください。
・全室内ユニット一括に行なう場合は、「AL」に合わせてください。

ワイヤードリモコンから設定する場合 のつづき

④冷媒アドレス、号機の確定
Ⓔ[運転切換]ボタンを押し、冷媒アドレス、号機が確定します。
しばらくするとモード番号表示部「ーー」が点滅します。

モード番号表示部
キノウ選択 0001

※室内ユニットの号機確認方法
Ⓔ[運転切換]ボタンにて確定操作をすることにより、確定された室内ユニットが送風運転を開始します。機能選択する号機の室内ユニットがどこにあるのか知りたい場合はこれにより確認してください。なお、号機が00、ALの場合は選択した冷媒アドレスの全室内ユニットが送風運転します。

(例) 冷媒アドレス00、号機＝02確定時の場合
冷媒アドレス=00
室外ユニット
室内ユニット 01号機 02号機 03号機
確定操作 リモコン 送風運転

※室温表示部に「88」が点滅表示する場合、選択した冷媒アドレスがシステム内にありません。
また、号機表示部が「F」となり、冷媒アドレス表示部が点滅表示となる場合は、選択した号機が存在しません。②、③にて冷媒アドレス、号機を正しく設定してください。

※異冷媒系統でグルーピング時、指定した冷媒アドレス以外の室内ユニットが送風運転する場合、ここで設定した冷媒アドレスの重複が考えられます。
再度、室外ユニットのディップスイッチにて冷媒アドレスの確認をしてください。

⑤モード番号の選択
Ⓕ[△][▽](設定温度)ボタンによりモード番号13を設定します。
(設定温度なモード番号のみ選択できます。)

モード番号表示部
キノウ選択 0001
13-
モード番号13=加湿器組込み

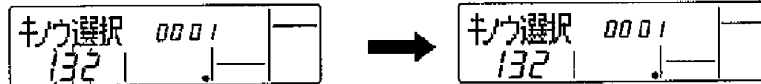
⑥選択したモードの設定内容を選択します。
Ⓖ[タイマーメニュー]ボタンを押すと、現在設定されている設定番号が点滅します。これにより現在の設定内容を確認してください。

Ⓕ[△][▽](設定温度)により設定番号を選択します。

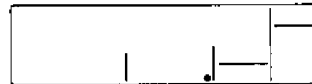
キノウ選択 0001
13 1
→
キノウ選択 0001
13 2

設定番号表示部
設定番号1=加湿器組込み無し
設定番号2=加湿器組込み有り

⑦②～⑥の設定内容を確定させる
Ⓔ[運転切換]ボタンを押すと、モード番号と設定番号が点滅し、登録を開始します。
モード番号、設定番号の点滅が点灯に変わり、設定が完了します。

キノウ選択 0001
132
→
キノウ選択 0001
132

※モード番号および設定番号が「ーーー」となり室温表示部に「88」が点滅表示となる場合は、通信異常が考えられます。
伝送路の近くにノイズ源がないか確認してください。

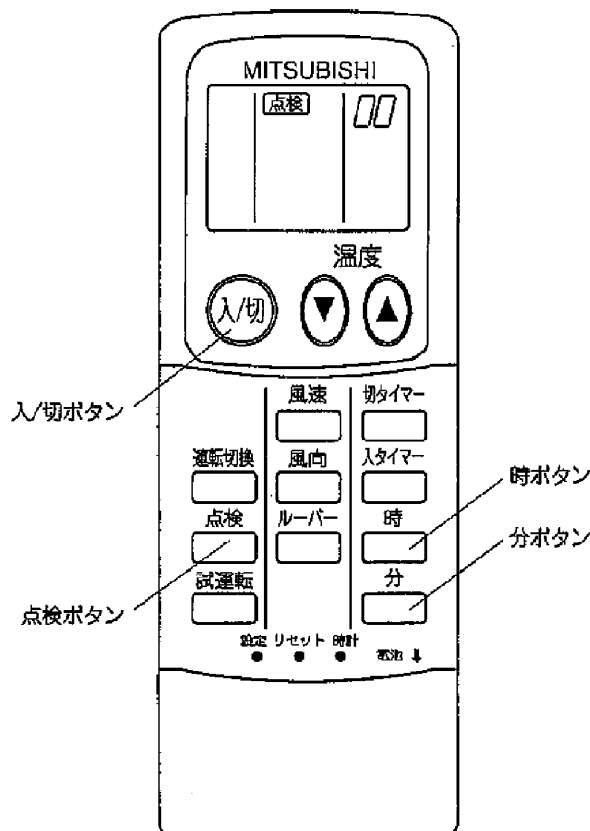
⑧更に、他の機能選択を行う場合は、②～⑦の作業を繰り返し行なってください。

⑨機能選択を終了します。
Ⓐ[フィルター]とⒷ[試運転]ボタンを同時に2秒以上押します。
しばらくすると機能選択画面が解除され、空調機停止画面へ復帰します。

※機能選択終了後、30秒間はリモコンより操作しないでください。(操作しても受付けません。)

お願い	途中で操作を間違えた場合は、Ⓐ[フィルター]とⒷ[試運転]ボタンを同時に2秒以上押し、30秒後に ① からやり直してください。

裏面にワイヤレスリモコンから設定する場合の説明があります。

ワイヤレスリモコンから設定する場合

設定は加湿器を取付けたユニット毎に行ってください。取付けたユニットが2台以上の場合、取付けた室内ユニットまたはその室内ユニットと同一室外ユニットに接続されている室内ユニットにワイヤレスリモコンの受信部がないと設定できませんので注意してください。

操作手順

①機能選択の設定内容を確認してください。

② 点検 ボタンを2回連続押します。

→ 点検 が点灯表示し“00”が点滅表示します。

▼ ボタンを1回押して“50”に合わせます。

ワイヤレスリモコン受光部に向けながら 時 ボタンを押します。

③室内ユニットの号機を合わせます。

▲、▼ ボタンを押して室内ユニットの号機に合わせます。(“01”:01号機を設定)

ワイヤレスリモコン受光部に向けながら 分 ボタンを押します。

(分 ボタンにて号機を入力することにより、確定された室内ユニットが送風運転を開始します。機能選択する号機の室内ユニットがどこにあるのか知りたい場合はこれにより確認してください。なお、号機が“07”の場合は同一冷媒内の全室内ユニットが送風運転します。)

※設定できない号機を入力した場合は、ブザー音“ピーピーピー (0.4秒+0.4秒+0.4秒)”が出力(ブザー音のみ出力)されます。この場合は、再度号機を入力し直してください。

※正常に受信できなかった場合(ブザー音出力せず、ブザー音“ピピッ”出力)は、再度号機を入力し直してください。

ワイヤレスリモコンから設定する場合 のつづき

④モード番号の選択

　▲、▼ボタンを押してモード番号を13に合わせます。

　ワイヤレスリモコン受光部に向けながら［時］ボタンを押します。

　→このとき、ブザー断続音と運転ランプ点滅により、選択したモード番号に対する現在設定値を出力します。

　　出力は現在設定値＝1→ピー（1秒）×1回

　　　　　　　　　　　2→ピー（1秒）×2回

　※設定できないモードを入力した場合は、ブザー音"ピーピーピー(0.4秒+0.4秒+0.4秒)"が出力（ブザー音のみ出力）されます。この場合は、再度モード番号13を入力し直してください。

　※正常に受信できなかった場合（ブザー音出力せず、またはブザー音"ピピッ"出力）は、再度モード番号13を入力し直してください。

⑤選択したモードの設定番号を入力します。

　▲、▼ボタンを押して設定番号を選択します。("02"：有り)

　ワイヤレスリモコン受光部に向けながら［時］ボタンを押します。

　→このとき、ブザー断続音と運転ランプ点滅により、選択したモード番号に対する設定番号を出力します。

　　　　設定番号＝1→ピーピー（0.4秒+0.4秒）×1回

　　　　　　　　　2→ピーピー（0.4秒+0.4秒）×2回

　※設定できない番号を入力した場合は、元々設定されていた番号に設定されます。

　※正常に受信できなかった場合(ブザー音出力せず、またはブザー音"ピピッ"出力)は、再度設　定番号を入力し直してください。

⑥室内ユニットの号機を変更して、機能選択を行う場合は③･④･⑤を繰り返してください。

⑦機能選択を終了します。

　［入／切］ボタンを押します。

　機能選択終了後、30秒間はワイヤレスリモコンより操作しないでください。

お願い	途中で操作を間違えたら、一度設定を終了し、再度②から行ってください。